

## 「信仰と召命」に関する勉強会アンケート

### 1. 参加者の背景

#### 年齢

21、25、27、28、33、34、34、39、40、47、49、51、60代、63、64、66、66、66、66、66

#### 叙階年数

10、35

#### 誓願年数(初誓願から)

8、14、39、38

#### 修道会

聖パウロ会(2)、  
コンレガシヨンドノートルダム、聖マリア修道女会、聖マリア在俗会、師イエズス修道女会

#### 教会:

下井草教会・千葉寺教会(2)・秦野教会・美濃加茂教会・麴町教会(2)、イグナチオ教会(3)  
目黒教会・横浜末吉町教会・調布教会・鹿児島教区司祭(養成者)・帯広教会(神学生)

### 2. 今回のシンポジウムについて「何処で」、あるいは「何で」知りましたか

- ・知り合いからチラシを貰った。
- ・シスターからチラシを頂いて。・S r. 松宮から、・シスターのお知らせから
- ・神学院で知った(2)
- ・神学生による案内で、(千葉寺の教会のお知らせで)
- ・カトリック召命チーム(2)・以前、イグナチオ教会で行われた召命チームの集いで
- ・参加者から。・知人から
- ・聖マリア大聖堂の掲示板、およびカトリック新聞、・カトリック新聞と教会でのお知らせ(2)
- ・教会のお知らせで
- ・CNDに貼ってあったポスターで、・ポスター(2)を見て、・聖イグナチオ教会のポスターで、
- ・しみち通りの修道会に貼られていたチラシを見て、インターネットで「カトリック召命チーム」の  
ことを知り、何と良い活動しておられることか!と関心を持ち、参加させて頂いた。
- ・パウロ書店のポスターで

### 3. 今回のシンポジウムから、何か気づかされたもの、得たものがありましたか

- ・親を悲しませているので、S r. 熊本のお話は力強く感じた。私の幸せが家族の幸せになればと思う。
- ・大西神学生の話は、自分自身を掴みにくい世の中、見出していく説明が具体的で面白かった。
- ・マタタ師の話はとても具体的で分かりやすかった。やはり家族、関わってくれた人、学校などが大切だと気づかされた。
- ・碓井志願者の話はとても明確で、響くものがあった。神の愛はいつも共にあり、包んで下さっている  
ことを感じさせられた。また神の恵みを感じるため、種々の霊的生活の手段が大切なんだと教えられた。
- ・パネラーを話しを聴いて、主が本当に働いていると感じた。
- ・召命に入る信仰者も、さまざまな人であっていいと思った。
- ・召命を育てる二つの要素
- ・信仰の力を信じたいと思った。
- ・召命とはイエスの愛を生きることだと思った。イエスは誰にでも愛を与えて下さることに感謝したい。
- ・自分の道を歩むときにわからなくなる。今日の話してイエスと共に歩む道は美しいと思った。

- ・パネラーが自分の本心があるがままに分かち合ってくださいる心からの言葉が、私の心に届いた。
- ・家庭の環境、同伴者、共同体の雰囲気、愛の重要性をきづかされた
- ・大変勉強になった。
- ・自分にとって「信仰とは何か」について考えるきっかけになった。信仰は恵み、力でありことを考えて見たい。
- ・召命の大切さ、教会共同体としてのサポートの大切さ
- ・日常生活そのものの大切さ。意識した生活の中で、私自身に気づくこと、そこにいる神との出会い。それは人を通して出来事を通して、働かれる神、そこに信仰があることに気づかされた。
- ・日本で召命は難しいと思った。子供が学校でイエス様について話せない。教会にいつていることを隠している。
- ・4人の方の話はとて興味深かった。
- ・ことしの復活に洗礼をうけたが、4人のパネラーの話を聴きながら、自分の歩みと重ねていた。特にミッションスクールでの日々が思い出された。祈りの中で満たされている自分と、その祈りの一時を今後、共に守って行きたいと改めて思った。結局、私が惹かれるのは、昔から変わらないのかも…。
- ・パネラーの信仰体験、召命体験を聴かせて貰って良かった。
- ・召命は一人で気づくのではなく、家庭の関わりの中で召命は育まれると感じた。
- ・召命は神の導きであると気づかされた。
- ・自分の頭の中で問い、理解するに留まっていたものに、具体的に応えて頂けた。
- ・共同体の活気
- ・子供、若者の召命について修道召命について毎日祈っている。特に子供若者の召命には、長い長い同伴によって種を蒔き続けるしかないのかなと、信徒としての同伴は…などと勝手に限界を作って考えていたが、祈りながらもっと大胆に神に近づき、強く願おうと思った。
- ・私たちの中に希望がある。
- ・悩み、空しさを抱え得ている若者（20歳）がいるが、そういう時期に同伴の大切さにあらためて気づかされた。
- ・パネラーの方々の召命、信仰が聖書のことばに支えられていることを感じた
- ・「自分は一体何者」という問いに、「自分は神に愛されている者だ」という気づきを与えられた。多くのものにこのことを知って欲しい。
- ・パネラーの話に感動し、すばらしい気づきを頂いた。ここで話されたような心の底からの思いを互いに分ち合い、信仰を深めていく機会がたくさん欲しい。（現在、ありのまま話合える時間が少なすぎる）
- ・信徒として聴かせて頂いたが、召命の危機が感じられないこの雰囲気に驚きを覚えている。3・11の大震災以後、今こそ日本の中に「主の呼ばれる声」「砂漠に呼ばれる声」が明瞭に聴かれる今日、教会自体が眠っていて、この声を聴かないことに問題があるのではないか。
- ・種々な会の人たちの、素直な声が聞けて良かった。自分の召命を明確にする上で参考になった。
- ・私は日本において、また世界的にも召命が多く生まれるように祈っている。イエスに出会うことがどんなに「人生を豊にする」ものであるかを、世に知らせたい。それによって平和と愛は広がる。

#### 4. 「信仰と召命」について、どう考えていますか。あなたの考えを聞かせてください。

- ・シスターになりたくても、どこで、誰に相談し、どうしたらよいか分からないので、召命の指標となるもの欲しい。（インターネットで調べられたらよい）
- ・信仰・神にすべてを委ねて生きること
- ・召命・神が恵みを与え、招き、人が喜びを持って応えるもの。
- ・召命は「きっかけ」が大切と思う。
- ・召命は家庭、同伴者、そして神の声に耳を傾ける心に芽生えると思う。
- ・召命は神からの招き、その声を聴くために、心を開き、その声に応えるために、神とのパイプが必要、それが信仰だと思った。
- ・信徒にも「信仰と召命」の使命がある。そのためにキリストは私たちをカトリック者にされたのだから。
- ・自分で望むのではなく神が働きかけ選んでくれるものだと思った。

- ・信仰を実践するものだと思います
- ・家庭、教会の存在。そこで育てられ有信仰が召命を育てる。根っこの部分を与えるチャンスを作っていくことと思う。
- ・信仰の中で歩むことが私の希望である。信仰と仕事のバランスで悩んでいる。
- ・召命のことは分からない。「神に委ねます」と応えることができる私でありたい。
- ・教会との関わり、信仰を持つ人たちとの関わりの中で、召命は生まれ、育つのだと思う。
- ・信じて愛する心をもって行けるかどうか
- ・神から受けた愛を皆に誇りたい。熱い心で。
- ・私は「観想修道会」への召命を考えている。観想修道会への入会は、教会との具体的つながりがなくなるのではないかと不安に思う。観想修道会は若者との接触がないので、どうしたら観想会への召命が増えるのかと思った。
- ・神を信じ祈る。
- ・召命運動の最終目的は司祭、修道者の召命であるが、イエスへの信仰に支えられる人が（信者）が政治、経済、法曹界、医師、教師、そして社会一般の中で、キリストの教えに従って生きるように召されているという自覚を持つことが大事であると思う。
- ・キリスト者であるなしにかかわらず、子供にはかならず、「善に向かう心」「全てを超える者に対する憧れ」が有ると思う。日常の中で、自分の周りにいる子供、若者たちに対して「イエスのまなざし」をもって関わって行きたい。どうかイエス、マリアがその眼差しを私の目に写して下さいようにと祈りながら。「信仰と召命」は全ての人々に注がれる神の叫びだと思う。一分一秒を疎かにせず命がけで応えていきたい。
- ・信仰と召命は関連が深いと思った。
- ・司祭は職業的に捉えやすいが、シスターの場合は少し「信仰」と結びついているように思う。
- ・信仰も召命も神からのお恵みで、神の計画によって出会った人や出来事を通して、自分では気づかないうちに育まれていくものだともう。それがその時が来たときに、どうやってかは分からないが、「はっ」と気づかされる瞬間があるのではないか。
- ・信者として長く生きてきたが、今は「信仰と召命」についてまとまりがつかない。これからの日々のふり返りの中で、考えて行きたい。感謝の内に。
- ・すべて信徒も、主から呼ばれたものとして召命を頂いている。その原点を呼び起こすような仕方で、すべての信徒に語りかけていく、傾聴していく関わり方が必要なのではないか。司祭、修道者を中心に召命を考えている限り、修道召命、司祭召命の種を見つけることは出来ない。
- ・信仰も召命も「神からの働きかけ」であり、その意味では表裏である。
- ・一信徒として縁遠いテーマと思いがちですが、全ての信徒が「召命」を願い求め祈る気持ちが必要。せめて信徒に「召命のために祈り、理解を深め」てくださるように、年間を通して働きかけていく（プログラムを作り）ことが必要ではないか
- ・召命は神の決定的なドラマだと思う。それには運動 movement が必要。祈りを土台にして、信仰の情熱の輪が広がることである。そのために具体的計画が必要。今日の話しでは positive を感じない。

## 5. このようなシンポジウムをするとすれば、「次回のテーマ」は何がいいですか。

- ・「信仰と召命」・・同じでよい。一人一人違うので（3人）
- ・若者とのかかわり。
- ・家庭における信仰生活
- ・教会と召命の歩み
- ・日本の現状において司祭、修道者の召命をどのように、得ることができるのか
- ・司祭、修道者、信徒の召命とは
- ・「何故この道を選んだか」・・信者以外の方々も興味を持つのではないか。
- ・それぞれの修道会の特徴など。

## ・教会離れについて

- ・修道者、司祭が危機を乗り越える助けとなった出来事、み言葉、祈り、人との出会いを分かち合っているかどうか。
- ・若者たちが将来の司祭や、修道者に望むこと、期待することを聴く（批判ではなく）
- ・この日本で自分を信仰をどう表明できるか。私の信仰宣言
- ・神、イエスとの出会いの時
- ・「あなたはどのように主に呼ばれていますか」とすべての信徒に問うて欲しい。教会に聴く耳がないことが問題である。
- ・今年が信仰年ということで、この企画がなされたとすれば、次回はその年の教会のテーマに従って行えばよい。
- ・教会（小教区）における召命促進の働き、役割、具体的プログラムなどについて。
- ・召命に関して決定的な経験をした、パウロ、アウグスチヌス、アビラの聖テレジア、またはマザーテレサの真実などなど。

## 6. その他

- ・小さなグループで分かち合いがあるとよい。
- ・シンポジウムの庵穴井がもう少し早くしれたら良かった。
- ・今回は東京地区、修道女連盟の研修会と重なっていた。日程の調整にもう少し配慮して頂けるともっと多くのシスター方が参加できたのではないか